

◆寄贈書案内

●加藤澤男名誉教授より寄贈（大行寺分館に所蔵）



書名：美しい体操の軌跡「この道を」～加藤沢男物語～

著者：加藤澤男

発行：2021年5月『美しい体操の軌跡 加藤沢男物語』出版委員会

東京新聞・中日新聞夕刊、新潟日報Otona+に連載された後、書籍用に編集された、加藤澤男先生の自伝です。

白鷗大学でのエピソードも掲載されています。

●白鷗大学幼児教育・保育研究会より寄贈（大行寺分館に所蔵）



書名：これからの保育内容

著者：白鷗大学幼児教育・保育研究会編著

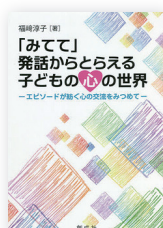
発行：2021年7月 一藝社

教育学部 児童教育専攻 幼児教育・保育コース教員による一冊。

幼児教育・保育コース全教員で担当する「発達の科学」や「保育学の研究法」をはじめ、多くの科目が掲載されています。

4年間の学びの振り返りにも役立ちます。

●福崎淳子先生より寄贈（大行寺分館に所蔵）



書名：「みてて」発話からとらえる子どもの心の世界 ～エピソードが紡ぐ心の交流をみつめて～

著者：福崎淳子

（元教育学部 発達科学科 児童教育専攻教授）

発行：2021年5月 創成社

エピソードをもとに、「みてて」発話に込められた繊細な子どもの心の動きをひもといた資料です。

つぶやき

本稿をつぶやいている時点で、県内には3度目の緊急事態宣言が発令されているが、休館の図書館もあるなかで、

本学は制限付きの開館を続けている。長時間の学習は不可とするが、本を探す学生に限り短時間の入館を認めている。

もちろん感染を甘く考えているわけではないが、感染リスクと学生サービスのバランスを推しはかりながらの綱渡りには違いない。正解の見えないコロナ禍ではこれも致し方あるまい。

令和3年10月1日 発行
編集 図書館だより編集委員会
発行 白鷗大学総合図書館
〒323-8586 栃木県小山市駅東通り2-2-2
ホームページ <https://library.hakuoh.jp>
印刷 第一印刷株式会社

バーコードの思い出

経営学部講師

八尾政行

皆さんはスタジオジブリ制作のアニメ映画「耳をすませば」を観たことがあるだろうか。本が好きな主人公の少女、月島雫とバイオリン職人になることを夢見る少年、天沢聖司との恋物語が描かれている。この物語で重要な役割を果たすのが図書館である。雫の父親が務める図書館で、彼女が借りた本の貸出カードにまだ見ぬ「天沢聖司」の名前を見つけたことから物語が進んでいく。

さて、皆さんの中には「貸出カード」といわれども想像がわからないという人もいるのではないだろうか。現在は、図書に張り付けられたバーコードを読み込むことで貸出・返却の管理が行われている。しかし、90年代はまだこのようなシステムが普及しておらず、図書の表紙裏に張り付けられた紙の袋に差し込まれた貸出カードに、氏名や

貸出・返却日などを記載することで、貸出・返却の管理が行われていた。「図書館がバーコード化される」といった雫の父親のセリフからもわかるように、「耳をすませば」は図書

館の貸出システムの過渡期の物語であるといえる。

私が通っていた中学校の図書室でも、入学当初は「耳をすませば」の図書館のように

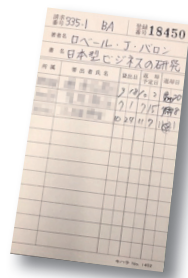
バーコード化されておらず、委員会活動のひとつである図書係がバーコード化の作業を進めていた。何の間違いか、中学2年生の後期に図書係長になった私は、バーコード化の作業に関わるようになった。

本のタイトル、著者名、ISBNコードなど図書の情報を記録し、パソコンに情報を打ち込み、専用のソフトを使いバーコードを印刷し、図書に張り付ける、という作業を一冊一冊に施した。放課後の貸出業務の合間を縫って作業をしたのだが、遅々として進まず、夏休みにも図書室を開けてもらい作業を行った。暑い夏の日、図書係の友人たちと他愛もない話をしながら作業をしたことが懐かしい。

図書に張られたバーコードを見ると、そんな自分の中学時代がふいに思い出されることがある。



本の裏表紙をめくると、ポケットの中に貸出カードが入っています。



白鷗大学総合図書館で実際に使用していた「貸出カード」

The enjoyable road to reading fluency

教育学部講師

Hooper Daniel Leonard



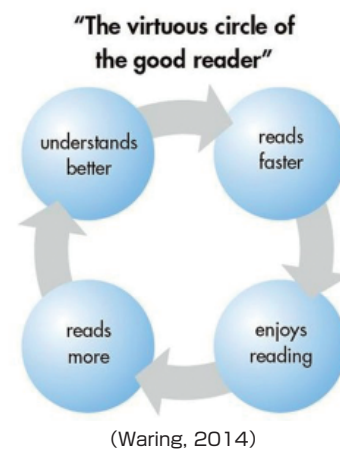
As a language teacher, I often feel embarrassed that even though my job is helping people to learn a foreign language, my ability as a Japanese language learner is certainly nothing to boast about! However, there is one exception to this unfortunate situation - my reading ability. Although I often can't understand what my colleagues are saying, can write almost zero kanji (I blame computers!), and am terrified whenever I have to actually speak Japanese, I actually feel reasonably comfortable reading emails or comments that I receive from professors and students. Why has this happened? Well, I believe that one big reason for this is one study method that I used a lot. Let me tell you about the power of extensive reading.

Extensive reading is reading lots of things that are at an easy level for you and are interesting to you. The perfect level for extensive reading is when you are able to read about 95-98% of words on a page without using your dictionary. This means that on a page of two hundred words, there should be only about six to ten words that you don't know. Because the level of books for extensive reading is easy, it means two things:

1. You are able to read quickly and develop your reading speed and fluency.
2. The reading experience is more enjoyable, which means you will be able to continue doing it for a long time.

Also, when you are doing extensive reading, you should only read books that are interesting to you. If you feel a book you are reading is boring

or too difficult, you should stop immediately and choose another! This is important because we are trying to build an enjoyable reading habit. Waring (2014) refers to this as "the virtuous cycle of the good reader" (see diagram below).



When we read books in other languages that are easy for us, we read faster. This helps to boost our confidence and allows us to enjoy reading more. As we read more and more books, our understanding grows, we feel our level improving, and we are able to read more advanced books. In this way, the "virtuous cycle of the good reader" continues!

As Hakuoh students you are lucky in that you have a wide selection of graded readers available in the library. Graded readers are short books specifically designed for extensive reading. There are graded readers that feature exciting stories and have information on many fascinating topics. Start your own "virtuous cycle" by visiting the library today!

流暢に読むための楽しい道

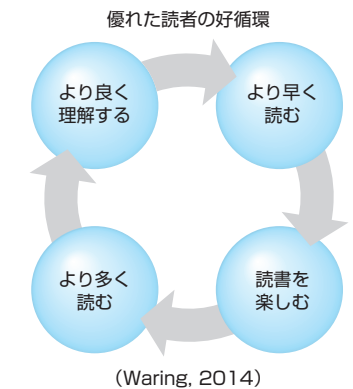
外国語を教える仕事をしているのに、日本語学習者としての自分の能力は自慢できるものではないと、恥ずかしく思うことがよくあります。しかし、このような状況の中でも、一つだけ例外があります。同僚が何を言っているのか理解できないことも多いし、漢字はほとんど書けないし（コンピュータのせいです！）、実際に日本語を話さなければならないときは恐怖を感じますが、教授や学生から届くメールやコメントを読むときは、それなりに安心して読むことができます。その大きな理由のひとつは、私がよく使っていたある勉強法にあると思っています。それは、「多読の力」です。

多読とは、自分にとって簡単なレベルのもの、興味のあるものをたくさん読むことです。多読に最適なレベルは、1ページの単語の95~98%程度を辞書を使わずに読めるようになったときです。つまり、200語のページで、知らない単語は6~10語程度しかないはずです。多読用書籍のレベルが易しいということは、次の2つの意味があります。

1. 速読ができるようになり、読むスピードと流暢さを身につけることができる。
2. 読書体験が楽しくなり、長く続けられるようになる。

また、多読をする際には、自分が興味を持った本だけを読むようにしましょう。読んでいる本がつまらなかったり、難しすぎると感じたら、すぐにやめて別の本を選ぶべきです。これは、楽しい読書の習慣を身につけるために重要なことです。

Waring (2014) は、これを「優れた読者の好循環」と呼んでいます。



自分にとって簡単な他の言語の本を読むと、読むスピードが速くなります。これが自信につながり、読書をより楽しめるようになります。どんどん本を読んでいくと、理解度が高まり、自分のレベルが上がっていることを実感し、より高度な本を読むことができるようになります。このようにして、「多読の好循環」が続いていくのです。

白鷗生は幸運にも、図書館にグレーデッド・リーダーが豊富に揃っています。グレーデッド・リーダーとは、多読用に作られた短い本のことで、刺激的なストーリーや、魅力的なトピックに関する情報が掲載されているものがあります。今すぐ図書館に行って、あなたの「好循環」を始めましょう。

References

Waring, R. (2014). *Dealing with vocabulary in the foreign language classroom*. Retrieved from <https://slideplayer.com/amp/6494217/>